

「DPASS SH600-J」 設置時 注意点

■ 必要契約 (事前)

- (1) 緊急地震速報 配信サービス利用申し込み。

■ LAN 側ネットワーク必要環境

- (1) 常時接続インターネット回線、及びプロバイダ契約。 (推奨動作環境：光回線)
(2) LAN 側から WAN 側に対して TCP/IP ポート No 9001 の開放。 …… ※1
(3) ドメイン名前解決(DNS)が可能な環境であること。
(4) DHCP による IP 自動取得。 …… ※2
(5) IP マスカレード(NAPT)、または NAT 有効な環境でも可能。 …… ※3

※1 セキュリティポリシー上、単純な形でのポート No 9001 の開放設定(すべての接続機器に対して開放)が難しい場合は、サーバーIP と端末の IP を含めた形でのセキュリティ設定を行ってください。

※2 基本初期設定は DHCP ですので、固定 IP 環境の場合は端末 WEB 又は本体から設定を行ってください。

※3 基本仕様として、WAN 側の固定 IP は不要です。

■ 外部機器 接続注意点

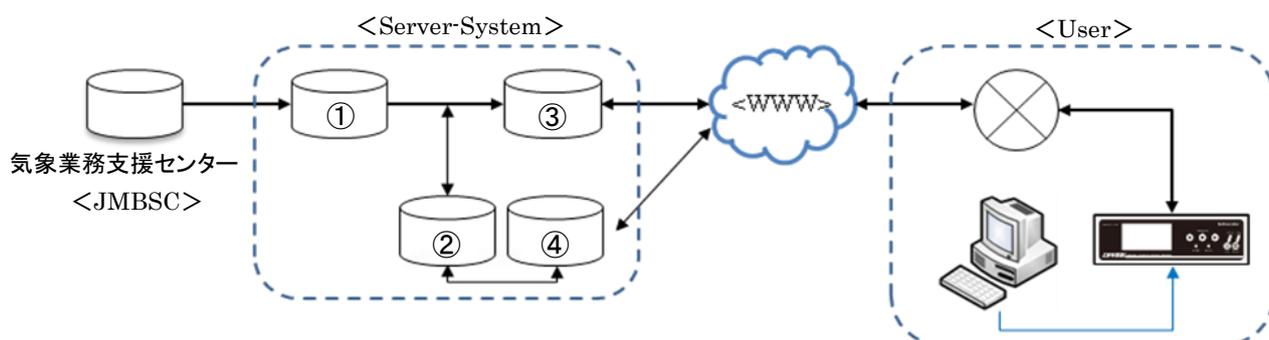
- (1) DO(1/2/3/4)ともに無電圧ループ接点ですので、別途電源回路を構成してください。また入力定格は必ず守ってください。
「SH600-J の DO 定格電圧 38V (最大ピーク 60V) / 規格電流 1000mA です。)
- (2) DI は、無電圧ループ接点(スイッチ)に対応しておりますので、電圧がかかるような構成にはしないでください。
- (3) DO と AF-OUT を利用して放送設備との連動を行なう際は、アンプ起動時間を考慮して DO と AF の設定を行ってください。設定がない場合は報知音声の頭切れが発生します。(設定については取扱説明書又は販売元にお問い合わせください。)
- (4) AF-OUT 出力レベルが足りない場合は、別途ミキサーアンプなどを介してラインレベルでの出力増幅をおこなってください。

※業務用放送設備の場合は、入出力に対しての調整範囲が広い為、スピーカー音量が不足する可能性はほとんどございませんが、非常用放送設備の場合調整範囲が狭い為、音量不足になる可能性がございます。

■ 通信関連 説明

(1) SH600-J 受・配信サーバーシステム 概要

- 緊急地震速報を二次配信するために4種類のサーバーを使用しております。
 - ① : 気象業務支援センターからの緊急地震速報電文を受信する「電文受信サーバー」
 - ② : 端末の個別情報の管理をする「登録サーバー」
 - ③ : 各端末へ電文の再配信を行なう「配信サーバー」
 - ④ : SH600-J アップデート管理サーバー



- 各サーバーの「IPアドレス & ポート No」

No	サーバー名	ドメイン	IPアドレス※	ポート No
②	登録サーバー	reg.digital-catfish.com	別途通知	9001
③	配信サーバー	-	別途通知	9001
④	UPDATE	up. dpass.jp	別途通知	80

※セキュリティ設定で登録・配信・UPDATE 各サーバーのIPアドレスが必要な場合は、販売元にご依頼ください。別途通知致します。

(2) 新規接続から通信開始～利用までの通信手順

- 1) 端末のLANケーブル及び電源を入れてください。(LAN & AC-DC12V)
- 2) 端末が、ルータから割り振られたIPと任意選択する自己PORT-No(1025～65535の中から任意)で、登録サーバーへPORT-No9001番を使いTCP/IPで通信確立を行います。
- 3) 端末は登録サーバーからの情報を参照し、個別登録済みの配信サーバーのIPアドレスを取得します。(登録サーバーに端末の情報がない場合は、端末はエラー画面を表示します。)
- 4) 配信サーバーのIP取得後、登録サーバーと端末は、FINとACK-FINパケットを送信し合い通信を終了します。
- 5) 3)で取得した配信サーバーのIPアドレスへTCP/IPで通信確立を行います。この通信確立により端末は設置場所情報(緯度・経度・地盤増幅率)を取得します。
- 6) 配信サーバーと端末は、通信終了パケットを送信せずに、通信を持続します。

・・・通常使用開始・・・

- 7) 約3分に1回、通信確認パケットを送り、配信サーバーとの接続の確認をします。
(ヘルスチェック:設置場所情報、時刻情報取得&時刻補正)
- 8) 上記7)でネットワーク異常など通信が切断された場合は、今までの通信を終了させ、新規に通信確立を行ないます。
※ 再起動又は通信異常発生時には上記5)手順からの通信を再開します。

(3) 電文受信～報知

通信を維持しているため、サーバーからの緊急地震速報の即時受信が可能になり、端末では電文を受信後、予測震度・猶予時間を演算して報知いたします。